

英語リーディングの授業における英語学的知識の活用について

On Application of Linguistics to Teaching Reading in English

奥田 隆一

Takaichi OKUDA

2007年10月15日受理

0. はじめに

近年、英語力の低下がよく話題にされている。そして、この英語力の低下を打開する策として、小学校での英語の教科化導入が真剣に検討されてきている。しかし、そこでいつも問題にされている英語力とは、聞いたり話したりする英語の力であって、読んだり書いたりする英語の力ではない。指導要領で、英語の語彙数を抑えたり、難しい文法事項を排除したりすることが中学校や高校で行われて久しいが、その影響が最近の大学生に顕著に見られる。くだけた会話表現を使ったり、易しい英語表現を理解することに関しては、以前の学生よりも確かにできるようになってきているし、英語のネイティブ・スピーカーに対して物怖じせずに話すことができるようになった。

ところが反対に、英語のきちんとした文章をしっかり理解することと、正しい英語表現を使って英文を書くことに関しては、以前と比べて格段に力が落ちてきている。特に、英文を読むことに関しては、以前から問題が多かったのに教育現場ではあまり改善が見られない。内容の理解を深めるための工夫が真剣に行われず、最近では、スラッシュ・リーディングとシャドーイングが大流行である。この論文では、このようなわべだけの教え方ではなく、英文自体の特徴を知り、それをきちんと説明することによる英文の読み方を、英語学的な観点から提唱しようとするものである。

1. 英語教育と単語、熟語、構文の知識

以前から、英語が読めるようになるには、単語、熟語、構文の知識が必要なので、ほとんどの教員が、単語、熟語、構文を丸暗記することを生徒にやらせてきた。日本ほど、英語の単語集、熟語集、構文集の本が出版されているところもないであろう。それも、単語集、熟語集、構文集には日本語訳が載せられていて、生徒はこの日本語訳を丸暗記して、英語の単語、熟語、構文を見ればその日本語訳が言えることを目標としてきた。これは昔も今も同じようである。

しかし、ここで問題なのは、英語を教えるときに英語を使って教えることをこれだけ強調されているのに、単語、熟語、構文を日本語訳で覚えさせることを続け

ていることである。ある英語の単語を見れば日本語訳ができる生徒は多いが、その単語の意味を英語で説明できる生徒は数えるほどしかない。これではいつまでたっても、英語の時間で日本語を学んでいるだけで、英語自体を使う機会が失われてしまうのではないだろうか。単語、熟語、構文を別の表現で言い換えるだけでも、リーディングをしながらライティング、スピーキングの力が養えるのに、この機会を放棄していることになる。パラフレーズの練習をするだけでも、かなりの英語力の向上が認められると思われる。

2. リーディングにおける意味の決定

英語教育では単語、熟語、構文の知識が強調されるが、上で述べたような日本語訳を覚えるだけで英語が読めるようになるのであろうか。そうではないことはすぐに分かることである。なぜなら、英語の単語や熟語にいくつもの意味があるからである。そして、そのいくつもの意味の中から、その文脈に合った意味を判断することが必要だからである。次の文を見てみよう。fileという単語が使われているが、「書類挟(ばさ)み」という意味で使われていないことが判断できて、その単語の意味が分かったといえるのではないだろうか。

(1) Throwing knives are often made from a soft steel, so that you can easily repair them with a hammer and a file if they got a dent.

—<http://www.knifethrowing.info/blade-handle.html>

この文ではその前にa hammerがあることから工具を指していることが分かるであろう。ここでは「やすり」という意味である。このように、いくつかの意味を持っている単語の意味を文脈で判断することができなければ英語の読みの力は高まらないのである。つまり、多義語(polysemous words)の知識を整理して、具体的な文脈からその意味を一義的に決定する情報を引き出す訓練が必要になるのである。

さらに、英語の文には構造的にあいまいな文がある

ので、ただ単に似た文字の並びがあっても、別の意味の場合があるから注意をしなければならない。英語学でよく使われる例を挙げておこう。

(2) Flying planes can be dangerous.

この文は、2通りにあいまいな文である。その証拠に、助動詞の部分can beのcanを取り去ると、次の2文ができる。

(3) a. Flying planes are dangerous.

b. Flying planes is dangerous.

つまり、(a)の方は、動詞がareとなっていること分かるようにplanesが主語でflyingはそれを修飾しているのである。「飛んでいる飛行機は危険だ」という意味になる。一方、(b)の方は、動詞がisになっていることから分かるように、flyingが主語で動名詞として働いていて、planesはflyという動詞の目的語である。「飛行機を飛ばすことは危険である」という意味になる。

このように、文字列としては同じものだが構造的に意味の違うものがある場合に、それを判断できる力がリーディングの力だといえる。(2)の例ではflying planesのflyingが動名詞か現在分詞かの判断が求められる。同じような例を一つ挙げておく。

(4) Imagine a raindrop falling into a puddle of water. As soon as the drop hits the water, little waves begin to form and spread in all directions like growing circles.

—Bettina Stiegel, *The Nobel Book of Answers*, p.105

この文のgrowing circlesもflying planesと同じように、「円を作る」と「広がる円」という意味の2通りに解釈できる。しかし、この文脈から「広がる円」という意味であることが分かるのだ。

同じようなことが熟語についても言える。with all...という熟語は次例のように「...にもかかわらず」という意味を持つ。

(5) With all her faults, I love her still.

ところが、次例のように、同じ文字列でも別の意味を表すことがある。

(6) Other things may be of interest only to you, like the name of the nice kid at the party or when the video store with all your favorite games is open. —Bettina Stiegel,

The Nobel Book of Answers, p.202

この文においてもwith all...という表現が使われているが、この意味は「みんなのお気に入りのゲームが置いてある」である。文脈からこのように意味を判断するという力が、不足している生徒が多くみられるのは、昨今の英語教育の問題点の一つと言えよう。

以上のように、同じ文字列でも、まったく違う意味をあらわすような例はいくらでもあげることができるであろう。問題は、このようなことに注目せずに、ただ単語や熟語や構文の日本語の意味を暗記して、それで英語が読めるようになって考えている生徒や、ひどい場合には教員までも存在するということであろう。

いくつかの意味から文脈で一つの意味に決定するという作業を経験しなければ、本当の英語読解力は養えないであろう。そのために、一番効果的なのは、やはり、英語のリーディングを教える際に、英語学・英文法の知識を活用して、説明的に教えるという教え方であろう。英語の構造に根ざした教え方をしないと、うわべだけの意味を取ることはできても、最終的には英語が分かったということにはならないであろう。

3. 英語の名詞表現の特徴

対照言語学的な観点から見ると、英語は名詞中心の言語で日本語は動詞中心の言語であるといえる。英語では、必要以上に名詞で表現しようとするため、英語の名詞を日本語の名詞に直訳しようとして、意味を正確にとらえられていない生徒が多い。

この原因を作っているのは、品詞ごとに対応させる訳の横行であろう。特に、名詞については気をつけるべきである。例を見てみよう。

(7) He is a student of linguistics.

この文は普通「彼は言語学の学生です」と訳して満足している生徒や、さらに先生方も多いようだ。しかしここで考えなければならない。つまり、studentは、いつも「学生」と訳すだけで終わってしまっていることを。次例を見ていただきたい。

(8) Donald F. Kettl is the Stanley I. Sheerr Endowed Term Professor in the Social Sciences at the University of Pennsylvania, where he is Director of the Fels Institute of Government and Professor of Political Science.

Professor Kettl is a student of public policy and public management and specializes in the management of public organizations. He has testified before Congress, regularly

appears on national television, and contributes to op-ed pages in major newspapers.
—<http://www.fels.upenn.edu/faculty/kettl.htm>

少し長く引用したが、それは、Kettlという人が決して「学生」ではなく、大学教授であることを確認するためである。つまり、この例からもわかるように、studentは「学生」と一対一対応をして訳すのには問題があるということだ。ここでは、「研究者」という訳が適当であろう。

それでは、なぜstudentが「学生」と「研究者」の2つの意味を持つことになるのであろうか。ここで振り返りたいのは次の文の文法性の違いである。

- (9) a. * He is a student of Wakayama University.
b. He is a student of economics.

この文の文法性の違いはどこから来ているかという点、studentという名詞の裏にあるstudyという動詞から来ているのである。ここで、動詞句と名詞句との関係を確認しておく。

- (10) a. to discover the cave
b. discovering the cave
c. the discovery of the cave

(10a)のような動詞句は、(10b)のように動名詞を用いて書くこともできるし、(10c)のように名詞を使って表すことができる。この場合、元の動詞と目的語の関係が前置詞ofを使うことによって表現されている。そのため、(9b)の背景にはto study economicsがあり、文法的に正しいが、(9a)が文法的におかしいのは？to study Wakayama Universityがおかしいからである。この場合はto study in/at Wakayama Universityとなるので、その前置詞が引き継がれて、student in/at Wakayama Universityとなるのが正しい用法だ。

以上のことを踏まえて考えてみると分かるように、studentというのはstudyという動詞が背景にあり、どのようなものであっても、それを「勉強、研究する」人であればstudentなのである。このように、動詞から派生した名詞の場合には、十分な注意が必要になってくる。次例を見てみよう。

- (11) He is a good pianist.
(12) He is a good fisherman.

この2つの文も「彼はよいピアニストだ」、「彼はよい漁師だ」という訳で終わらせていることが多いよう

だ。しかし、この二つの文も、上で見た文と同じように、good pianistはplay the piano very wellの意味として、a good fishermanはto fish very wellの意味として使われるのが普通である。つまり、「彼はピアノを上手に弾く」「彼は釣りがうまい」という意味で使うのである。

以上のように、英語の名詞表現を日本語の名詞で置き換えるのではなく、特徴を正確に捕まえて、説明することがなされないと、本当の読解力は養えないであろう。

4. パラグラフという概念

リーディングの指導で、最近よく取り上げられるのがパラグラフ・リーディングであり、その場合に決まって説明されるのがパラグラフ構成とディスコース・マーカーについてである。

4.1. パラグラフ構成について

一般的に授業で説明されるのは、パラグラフ構成についてであるが、大まかに言って、パラグラフは話題文(topic sentence)と支持文(supporting details)と結論文(closing sentence)とで成り立つと言える例を見てみよう。

- (13) [1] There are three reasons why Canada is one of the best countries in the world. [2] First, Canada has an excellent health care system. [3] All Canadians have access to medical services at a reasonable price. [4] Second, Canada has a high standard of education. Students are taught by well-trained teachers and are encouraged to continue studying at university. [5] Finally, Canada's cities are clean and efficiently managed. [6] Canadian cities have many parks and lots of space for people to live. [7] As a result, Canada is a desirable place to live.
—<http://www.paragraphorganizer.com/inner/about-us.htm>

このパラグラフにおいて、話題文(topic sentence)は、[1]であり、支持文(supporting details)は、[2]、[3]、[4]、[5]、[6]であり、結論文(closing sentence)は、[7]である。リーディングの授業ではこのように分かりやすいパラグラフの例が示されるが、パラグラフの特徴について説明されることが少ないようである。

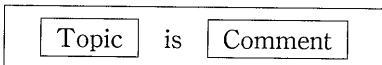
まず、パラグラフは話題文と支持文と結論文とで成り立つと説明されるが、結論文は示されないこともある。このことに関して、あまり説明されていない。こ

のことに关しては少し考えると分かることだが、文章が一つのパラグラフで成り立っているか、複数のパラグラフで成り立っているかによって、結論文が入るかどうかが決まるのである。

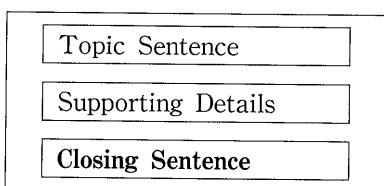
ある事象について、説明する場合、一文で説明することもできるし、一つのパラグラフで説明することもできるし、いくつかのパラグラフで説明することもできる。この関係は次のように図示することができる。

I. 一文

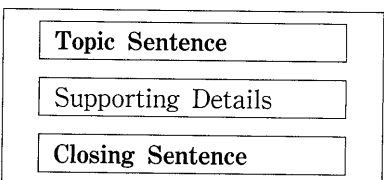
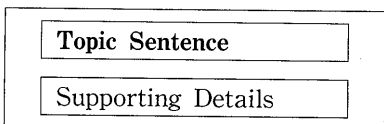
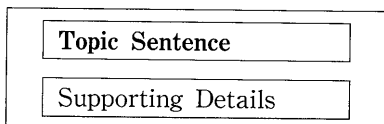
II. 1パラグラフ



III. 複数のパラグラフ



図を見れば分かるように、これらはおおまかな相似



形をなしているのである。一文で表す場合は、ある話題(topic)を取り上げて、それがどうであるか(comment)を述べる。それが、1パラグラフになると、その一文がトピック・センテンス、つまり話題文になり、それを詳しく説明する支持文が続き、話題を確認する結論文が最後に来るのである。

さらに複数のパラグラフで述べる場合には、はじめに話題を提供するパラグラフが来て、そのパラグラフは、話題文と支持文で構成されるという形になる。そしてその後、話題を膨らませるパラグラフが続くことになる。つまり、1パラグラフで表す場合の支持文に当たるパラグラフである。このパラグラフも話題文と支持文で構成される。さらに最後には、結論を表すパラグラフが来る。これも、1パラグラフで表す場合

の結論文の役割を果たすものである。このパラグラフは、話題文と支持文と、結論文で構成されるのである。

このように、文(one sentence)とパラグラフ(one paragraph)と文章(some paragraphs)の間には相似の関係があることを、リーディングの授業で教えるべきなのであるが、教授資料などに説明されていないのか、実践例を目にすることがない。

また、パラグラフの種類にも目を向けて説明することが重要であろう。そして、その種類によって特徴的に使われる表現を正確に理解させることも必要であろう。以下に、パラグラフの種類と、特徴的な表現をあげておく。

・パラグラフの種類

a. 定義を表すパラグラフ(definition)

1. "is defined as" : A pest is defined as any animal or plant that damages crops, forests, or property.

2. "is a kind of" : A pest is a kind of animal or plant that damages crops, forests, or property.

b. 順序を表すパラグラフ(sequence)

Order : first, second, third, in the beginning, before, then, after, finally, at last, subsequently

Time : recently, previously, afterwards, when, after

c. 分類のパラグラフ(classification)

is a kind of, can be divided into, is a type of, falls under, belongs to, is a part of, fits into, is grouped with, is related to, is associated with

d. 選択を表すパラグラフ(choice)

Point of View : in my opinion, belief, idea, understanding, I think that, I consider, I believe, it seems to me, I prefer
Personal Opinion : feel, hope, like/dislike

e. 描写のパラグラフ(description)

Properties : size, color, shape, purpose
Measurement : length, width, mass/weight, speed

Analogy : is like, resembles,

Location : in, above, below, beside, near, north/east/south/west

f. 説明のパラグラフ(explanation)

Cause : because, since, as a result of, is due to

Effect : therefore, thus, consequently, hence, it follows that, if...then

g. 比較・対照のパラグラフ(compare and contrast)

Similarities : is similar to, both, also, too, as well

Differences : on the other hand, however, but, in contrast, differ from, while, unlike

h. 評価を表すパラグラフ (evaluation)

Criteria for Evaluation : good/bad, correct/incorrect, moral/immoral, right/wrong, important/trivial

Recommendation : suggest, recommend, advise, argue

—http://www2.actden.com/writ-den/tips/paragrap/

以上のように、パラグラフの特徴に注目させることはリーディングの学習にとっても重要なことであるばかりでなく、英語のライティングをする場合にも理解しておくべきことなのである。

さらに重要なのは、パラグラフ構成に関して、上のような単純な形の例しか示されていないために、変種をうまく読み取れない生徒がいることである。Singer & Donlan(1989²: 300-3)からの例を見てみよう。

(14)[1]My two brothers are different from one another.[2]John, the older of the two, studies continually and is planning to be a doctor.[3]Phil, the youngest, constantly works on cars and plans to be a professional racer.

このパラグラフにおいて、話題文は[1]で、[2]と[3]は支持文である。結論文はない。つまり、結論文は必要不可欠なものではなく、随意的なものなのである。

(15)[1]There are basically three kinds of rocks.[2]Sedimentary rocks are made from sand and gravel particles.[3]Igneous rocks were formed by fire, such as lava.[4]Other rocks, like marble, are called metamorphic rock because over time they changed their form because of chemical or climatic conditions.

このパラグラフでも、冒頭の文[1]が話題文で、残りの[2]、[3]、[4]の文が支持文だ。このパラグラフにも結論文がない。

(16)[1]Most of the soldiers were either asleep

or recovering from drunkenness.[2]The sentries could be found only in a couple of lookout positions.[3]Much of the heavy artillery was locked in sheds or covered in canvas.[4]Four of the commanding officers were absent from the post.[5]The army was totally unprepared for the guerilla attack.

このパラグラフでは、[1]、[2]、[3]、[4]が支持文で、最後の文[5]が話題文である。つまり話題文が最後に来ることもある。

(17)[1]It should have been no surprise to the community when Gudmunson Motors went bankrupt.[2]For five years, the company had been involved in a major lawsuit.[3]A customer who had purchased a new car claimed in court that the car had an inadequate braking system.[4]The customer also claimed that the company's failure to make good on the warranty by repairing the brakes was the direct cause of a serious automobile accident in which three children were seriously injured.[5]Mr. Gudmunson had become somewhat of a scandal in town when auditors determined that he had misused four hundred thousand dollars in investors' money to buy common stock on margin.[6]When the stock declined in value, rather than increase as Gudmunson had thought, he was unable to replace the funds.[7]Competition also reduced Gudmunson's profit margins.[8]In 1954, Gudmunson was the only major new car dealer in town.[9]Now, there were twelve other dealerships.

このパラグラフはさらに複雑で、[1]が話題文であることはすぐに分かる。ところが、支持文に特徴がある。支持文は[2]、[5]、[7]で、[3]と[4]は、[2]を支持する文で、[6]が[5]を支持し、[8]、[9]が[7]の支持文になっている。つまり、支持文を指示する下位の支持文があるという形なのである。表にする次のようになる。

Topic Sentence[1]
Supporting detail 1[2]
Supporting detail 1.1[3]
Supporting detail 1.2[4]

Supporting detail 2	[5]
Supporting detail 2.1	[6]
Supporting detail 3	[7]
Supporting detail 3.1	[8]
Supporting detail 3.2	[9]

このように、パラグラフの構成にもいろいろな形があり、教員は、これらのいろいろな展開法を熟知しておき、指導の際に説明できるようになっておくべきであろう。このパラグラフの展開法に関しては、リーディングの教材であまり詳しく取り上げられていないので、この分野の研究がもっとなされ、うまく授業で応用されるべきだと考える。

5. 英語学的に見たパラグラフ

英語学的な観点からのパラグラフの分析は、結束性 (cohesion) という観点からのものが一番参考になる。Halliday (1976) は、これを指示 (reference)、代用 (substitution)、省略 (ellipsis)、接続 (conjunction)、語彙的結束性 (lexical cohesion) という 5 つの観点から分析している。

5.1. リーディングに重要な結束性

リーディングという観点から見てみると、今まで教授されてきた結束性は、指示と代用だけではなかったであろうか。つまり、簡単に言うと、「この this は何を指しているのか」とか「この do so は何のことか」「この文では何が省略されているのか」というように、指示形容詞、指示代名詞の指すものや、代動詞の意味内容を問うたり、省略されているものを補うことなどによって、理解を深めるということをやってきた。

近年では、接続に当たるディスコース・マーカ―の説明が熟語的な観点から盛んに教授されるようになってきている。このように、リーディングにおいては結束性が重要なことは周知の事実だったが、英語学的観点からの説明が不足しているようである。

そこで、あまり普通の教科書などで説明されていない接続語句と接続詞との関係の理解についてや、語彙的結束性について以下で見ることとする。

5.2. 接続語句と接続詞

接続詞 (onjunction) は文と文を接続して一つの文にする役割を持っているものだが、接続語句 (sentence connectors) は、文と文を独立したもののまま、関連付ける働きをするものである。例文を見てみよう。

- (18) a. We visited him **while** he was in Japan.
 b. **While** he was in Japan, we often visited him.
 (19) a. There was no heating in the building.

As a result, the workers had to be sent home.

- b. There was no heating in the building.
 The workers had to be sent home **as a result**.

接続詞は、(18a)、(18b) のように二つの文を一文にしている。また、接続語句の as a result は二つの文をそのまま独立させているが、関連付けている。本質的には接続詞も接続語句も同じ働きなのである。

この本質的には同じ働きであるということをとらえていない生徒が多く見られるのも、高等学校までの英語のリーディングの指導で短文ばかりの理解をしているからであろう。例を見てみよう。

(20) **Some** see the problem as “insatiable demands” by “consumers with unrealistic expectations”; **others** put more emphasis on inefficiencies and inadequate management within the medical care systems themselves; **still others** stress the extensive evidence of inappropriate and ineffective care.

—Evans, Barer & Marmor, *Why Are Some People Healthy and Others Not? The Determinants of Health of Populations*, p.218

(21) **Some** languages have nasalized vowels similar to those of French. Many have the consonant known as the glottal stop. **Some** Native American languages have a stress accent reminiscent of English, and **others** have a pitch accent of rising and falling tones similar to that of Chinese. **Still others** have both stress and pitch accents.

—*The Columbia Encyclopedia*, p.33484

このように、接続語句は独立した文をつなぐ役割を果たしているので、この機能をきちんと生徒に理解させることが求められるのである。

5.3. 語彙的結束性

次に、あまり触れられていないのが、語彙的結束性である。これは、ある語を別の関連ある語で言い換えるものである。例を見てみよう。

(22) There's a **boy** climbing that tree :

- a. **The boy's** going to fall (same item)
 b. **The lad's** going to fall (synonym)
 c. **The child's** going to fall (superordinate)
 d. **The idiot's** going to fall (general word)

—Carter(1998 : 81)

このように、ある語を繰り返すのに、別の同意語で言い換えるのである。この英語の特徴をきちんと捉えていない生徒は、そのまま「その…」と和訳し、登場人物があたかも増えたかのように理解してしまうのである。

5.4. 一般名詞

この語彙的結束性の中で我々日本人が誤解してしまうのは、一般名詞(general word)での言い換えである。パラグラフの中では、「定冠詞＋一般名詞」という形で言い換えられるため、名詞の直訳では意味を捉えきれないのである。例を見てみよう。

- (23) a. We all kept quiet. That seemed the best move.
 b. I turned to the ascent of the peak. The {ascent/climb/ task/ thing} is perfectly easy.
 cf. journey, trip

(23a)の下線部は「最良の一手、最良の行動」ぐらいの意味であろう。(23b)のthe taskやthe thingを逐語訳しても本質は捉えられないであろう。

Halliday(1976 : 360)は、このような一般名詞のリストを次のようにあげている。

people, person, man, woman, child, boy, girl
 [human]
 creature[non-human animate]
 thing, object[inanimate concrete count]
 stuff[inanimate concrete mass]
 business, affair, matter[inanimate abstract]
 move[action]
 place[place]
 question, idea[fact]
 —Halliday(1976 : 274)

ここにはあがっていないが、次のthe theoryというのも一般名詞の例である。

- (24) Since Democritus's atoms were invisible, and so remained unimaginable for most people, this theory was shelved indefinitely.
 —Bettina Stielke, *The Nobel Book of Answers*, p.108

この文のtheoryは「理論」ではなく、「考え」ぐらいの意味である。Calker(1996 : 107)では、belief, conclusion, idea, plan, theory, view, viewpointを同じような類の語に分類している。

このように、語彙的結束性を理解することは、英語の読解に不可欠であるように思われる。そのためには、この分野の英語学的な分析がさらに進められ、その成果を英語教育に応用することが重要であると思われる。

Chalker(1996 : 94-115)によるリストを以下にあげておく。

Actions, events, and situations

- act, action, activity, course(of action), move, process
- circumstance(s), context, position, situation, state of affairs, state
- plight, predicament
- result, development, effect, outcome
- episode, event, experience
- manner, method, means, practice, system
- phenomenon, possibility
- achievement, exploit, feat
- affair, business
- crisis, difficulty, problem, dilemma
- solution
- accident, disaster, tragedy
- incident

Facts, statements, and ideas

- fact, factor
- issue, matter, subject, topic
- aspect, respect
- purpose, end, reason
- announcement, comment, declaration, message, remark, statement
- account, description, information, reference
- belief, conclusion, idea, plan, theory, view, viewpoint
- suggestion
- promise, question, request, answer, reply, response
- argument, assertion, claim, criticism, objection, option, point
- accusation, allegation, threat
- advice, warning
- apology, admission, conference, excuse, explanation, denial, refusal
- attitude, doubt, fear, guess, hope, objection, wish
- compliment
- rumour
- stuff

Text as text

- ・ word, phrase, sentence, paragraph
- ・ quotation
- ・ passage
- ・ dialogue

6. まとめ

英語リーディングの授業における英語学的知識の活用について取り上げたが、問題は日本語と英語を一対一に対応させる逐語訳の習慣が、今になっても無くなっていないことである。

この習慣を改善するために、英語学的知識を導入することが必要であり、これをうまくすると、生徒の英語読解力を大幅にアップさせることができると思われる。

そのためにも、英語学研究者のパラグラフに関する

研究と教育実践者の地道な協力関係がさらに望まれるのである。

参考文献

- Carter, Ronald. (1998) *Vocabulary : Applied Linguistic Perspectives*. Routledge.
- Chalker, Sylvia (1996) *COBUILD English Guides 9 : Linking Words*. Harper Collins Publishers.
- Chomsky, Noam (1970) "Remarks on Nominalization," *Readings in English Transformational Grammar*, ed. by Jacobs. R. A and P.S. Rosenbaum, Waltham, Mass. : Blaisdell.
- Halliday M.A.K. (1976) *Cohesion in English*. Longman.
- Singer, Harry & Dan Donlan (1989²) *Reading and Learning from Text*. Lawrence Erlbaum Associates.
- 河野一郎 (1999) 『翻訳のおきて』 (DHC)
- 別宮貞徳 (2006) 『さらば学校英語 実践翻訳の技術』 (ちくま学芸文庫)